

うえるうえる

Well Well

第27号

10周年記念号

医療法人社団 坂井瑠実クリニック
創立十周年記念式典



今年はずエンジの年

坂井瑠実クリニック理事長 坂井瑠実

100年に1度といわれる経済危機、世界同時不況の中の2009年の幕開け、あけましておめでとう“どころではない新年です。自分の責任でないのに瞬時にして財産がなくなり、多くの会社が倒産し、トヨタ、ソニーまでが赤字になるなど信じられないことばかりで、経済オンチの私の頭はパニックです。国が大変になれば必ず医療、福祉にしわ寄せが来ます。こんな時だからこそ年頭に当たっていろいろ覚悟をしなければなりません。キーワードはやはり“Change チェンジ”。発想も、体制もChange吧。

昨年は、坂井瑠実クリニック開院10周年に加えて長時間透析研究会の当番幹事で、特に後半、とても忙しい年でした。忙しさにかまけて、申し訳ないことにこの“うえるうえる”の発刊が遅れてしまいました。継続は力ですからなるべく年4回発刊していきたいものです。

1月24日、四川会という東海地区の若手透析医、スタッフのための勉強会に、“長時間透析実現のノウハウ”患者様の納得を得るには“というテーマで講演を依頼されています。当院でもなかなか実現できないのに：と頭を悩ませています。長時間透析が体に良いというのはほぼコンセンサスが得られていますし、診療報酬でも評価されていますが、実際4時間でも長いのですから、時間延長を納得していただくのは難しい事です。でも次のような人は透析時間を30分でも延ばしてください。①透析中に血圧の下がる人、下肢つりをきたす人 ②ドライウエートの5%以上増える人 ③心疾患のある人（不整脈、狭心症等、心電図や心エコーの異常、バイパス術、PTCA、ステントの既往） ④リン、カリウムが高い人 ⑤家に帰って1〜2時間休まないと動けない人 ⑥かゆみがある人、口臭が気になる人、色が黒くなったと感じる人 ⑦薬をたくさん服用している人 etc。長時間透析をしたいのだけど時間がないといわれる皆さん！睡眠時間を透析に使いますか？それとも在宅血液透析を考えてみましょうか？ 発想を転換してみましょう！ 良い年でありますように！

坂井瑠実クリニック 10年の歩み

1998年(平成10年)

- * 坂井瑠実クリニック開院式(10/10)
坂井瑠実院長に就任
- * 診療開始(11/2)
- * 患者会設立総会(11/22)
- * 友愛会発足(12/1)



坂井瑠実クリニック開院式

1999年(平成11年)

- * 入院開始(1/11) 一般病床19床
- * PTXの手術始まる 小林先生
- * 眼科外来始まる 絵野先生
- * クリニック・友愛会合同焼肉パーティー(7/11)
- * 第1回友愛会クリスマスパーティー
武庫の郷で(12/21)

1月

神戸市難病連送迎支援の会「ジャスミン」発足



PTX手術

2000年(平成12年)

- * 「腎臓のイロハから対策まで」第1版発行(1月)
- * ハイム御影4階に
かなえ訪問介護事業所を置く(4/1)
- * 友愛会第1回定期総会、
勉強会・スプリングセミナー(4/29)
- * 第1回クリニックスタッフと患者会の懇談会(8/27)
- * 秋の親睦行事 住吉川上流でバーベキュー(10/22)
- * 第2回友愛会クリスマスパーティー
ホテルモントレーアマリーで(12/17)

4月

介護保険制度実施される
森内閣発足



秋の親睦行事 住吉川上流でバーベキュー

2003年(平成15年)

- * 透析ツアーハワイ旅行
(2/16、2/21)
- * ハイム御影閉鎖(5/30)
- * 病棟4階へ引越し(6/28)
- * 南透析室オープン(7/21)
- * 給食委託開始(7/21)
- * 友愛会日帰りツアー 武蔵の郷(9/7)
- * 第1回坂井瑠実クリニックゴルフコンペ(11/30)
- * 第5回友愛会クリスマス会 第一楼で(12/21)



透析ツアーハワイ旅行

2004年(平成16年)

- * 第1回近藤宏二杯ボーリング大会(1/28)
- * 友愛会バスツアー 六甲山(7/25)
- * スタッフと患者会の座談会
「快適な透析環境とは」(8/22)
- * 第1回阪神タイガース応援ツアー(9/28)
- * 整形外科外来始まる 金川先生(10/1)
- * 第6回友愛会クリスマス会 第一楼(12/5)



第1回近藤宏二杯ボーリング大会

2005年(平成17年)

- * 芦屋坂井瑠実クリニック開院式(3/20)
診療開始(4/1) 隔日透析始まる
- 坂井院長が芦屋坂井瑠実クリニック院長に就任、
本院には喜田院長就任
- * 臨床研修医受け入れ始まる(4/7)
- * 友愛会バス旅行 淡路・鳴門・大塚国際美術館(7/24)
- * 友愛会クリスマス会 ポートピアホテル(12/11)



芦屋坂井瑠実クリニック開院式



阪神タイガース応援ツアー



第1回坂井瑠実クリニックゴルフコンペ

3月

イラク戦争勃発

* フラワーアレンジメント講習会始まる
講師浜田良子先生(5月)

* 友愛会日帰りバスツアー

フルーツフラワーパーク(7/22)

* 兵庫県透析施設対抗

バレーボール大会に出場(9/30)

* 医療法人設立認可(11/12)

坂井瑠実理事長となる

* 3周年記念式典・祝賀会、

長期透析者表彰(12/9)

* 機関紙うえるうえる創刊(12/9)

* 第3回友愛会クリスマスパーティー

ベイシエラトンホテルで(12/17)

* 居宅介護支援事業所 みのり開設(2/1)

* 腎移植外来始まる 樋口先生(6/1)

* 第13回日本サイコネフロジー研究会

松方ホールで開催

坂井瑠実が当番幹事を務める(6/30)

* 友愛会日帰りバスツアー

防災センター・須磨海浜水族園(7/14)

* 喜田先生副院長に就任(10/1)

* 第4回友愛会クリスマスパーティー

ポートピアホテルで(12/15)

4月
小泉内閣発足



講習会風景

9月
アメリカ同時多発テロ発生



3周年記念式典・祝賀会での
長期透析者表彰

4月

診療報酬大巾改定
時間区分の廃止



第13回日本サイコネフロジー研究会

* 新卒技士入社式 4名(4/3)

* 友愛会第7回総会とスプリングセミナー(4/30)

* 友愛会バス旅行 花鳥園(7/23)

* 患者会幹事とクリニックとの座談会(11/26)

* 友愛会クリスマス会 神仙閣(12/7)

* 第4回ボリング大会(2/4)

* 透析のイロハから対策まで 第Ⅲ版出版(3/1)

* 友愛会バス旅行 三田しいたけ園(6/10)

* 長期透析者 うえるうえる座談会

ポートピアホテル(9/9)

* 第5回坂井瑠実クリニックゴルフコンペ(11/18)

* 友愛会クリスマス会 ホテルプラザ神戸(12/16)

* 岡本先生副院長に就任

* 第9回友愛会総会とスプリングセミナー(4/13)

* 友愛会バス旅行京都嵐山(4/25)

* 創立十周年記念式典・祝賀会

ポートピアホテルで(10/26)

* 第4回長時間透析研究会開催

神商ホールで(11/30)

2月

神戸空港開港

診療報酬改定

EPO製剤の技術料への
包括化

9月

安倍内閣発足



友愛会クリスマス会(神仙閣)

9月

福田内閣発足

10月

郵政民営化

4月

後期高齢者医療制度実施

診療報酬改定
ダイアライザーの引下げと
時間枠の復活

9月

麻生内閣発足

10月

アメリカ金融危機

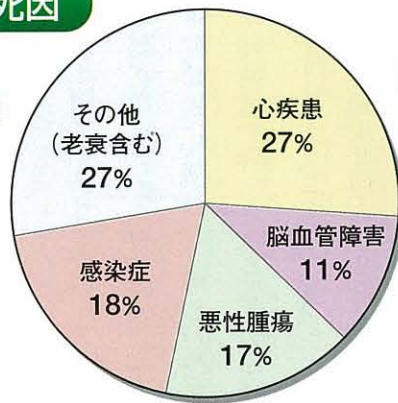
10年間の患者動向

手術件数

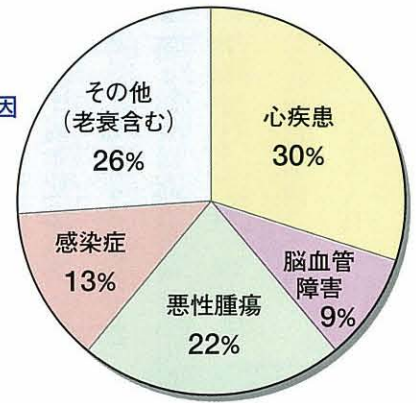
	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	合計
二次性副甲状腺機能亢進症	4	41	27	25	35	32	30	30	41	38	26	329
副甲状腺摘出術(移植腺)	0	8	6	1	7	4	12	7	4	5	6	60
内シャント	0	22	24	25	31	34	26	38	48	40	27	315
内シャントPTA	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	8
腹膜透析の手術	1	3	2	3	3	9	6	6	6	3	8	50
手根管症候群の手術	0	0	0	13	12	8	5	16	22	10	13	99
ばね指	0	0	2	4	9	8	10	5	9	10	4	61
原発性副甲状腺機能亢進症	0	0	7	12	9	8	9	8	10	6	10	79
甲状腺の手術	0	5	2	1	6	4	7	10	3	5	7	50
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	5
合計	5	79	70	84	112	107	105	121	147	121	105	1056

亡くなられた方の死因

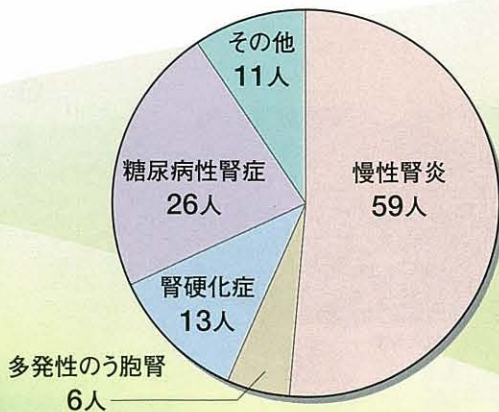
■平成7年までに亡くなられた方の死因



■過去3年間に亡くなられた方の死因

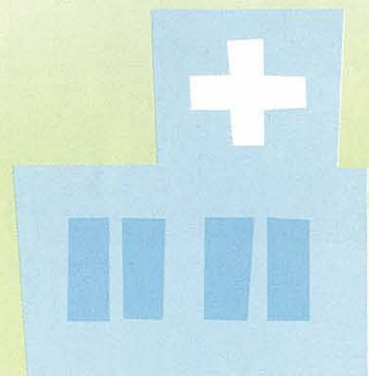


2008年末現在 新規導入患者の原疾患



移植患者数

総数…17名
 献腎移植…8名
 生体移植…9名

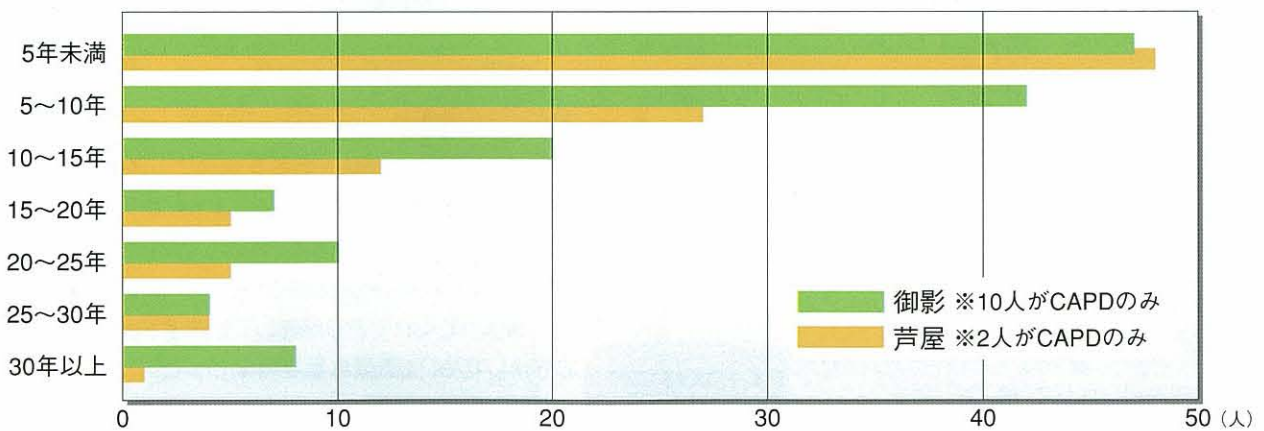


現況

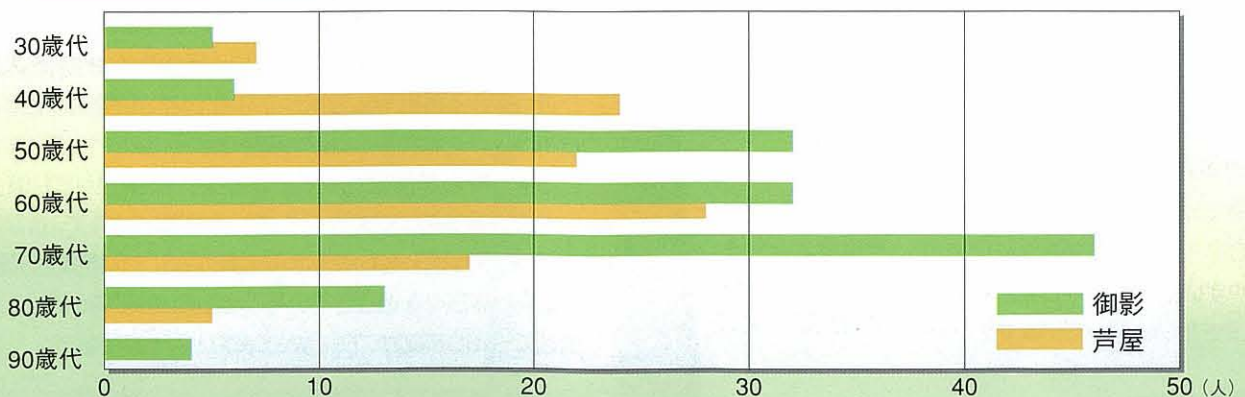
2008年末医療法人社団坂井瑠実クリニック透析患者の内訳

		御影	芦屋	合計
患者数	H D	134	90	224
	CAPD (HD併用含む)	19	4	23
	在宅血液透析	0	10	10
透析回数	週3回	118	50	168
	週4回	14	4	18
	隔日	0	31	31
	その他	7	5	12
透析時間	4時間未満 (週3回)	5	2	7
	4時間未満 (週4回)	14	0	14
	4～5時間 (週3回)	77	46	123
	4～5時間 (週4回・隔日)	0	27	27
	5時間以上 (週3回)	33	6	39
	5時間以上 (週4回・隔日)	0	22	22

2008年末現在 透析継続年数



2008年末現在 年齢



10 周年の 抱負



院長 喜田 智幸

坂井瑠実クリニックも開院10周年を迎えることができました。この間色々なことがありましたが、無事現在があるのも職員みんなのがんばりと、患者さん達をはじめとする皆様方の御支持のおかげだと思えます。深く感謝申し上げます。

ところで、今年も世間では様々なことがありました。世界経済はアメリカのサブプライムローン問題を発端とする証券、債券の暴落で混乱を起こしています。商売の基本は安いものを高く売りつけることにあるのかもしれませんが。しかし価値の無いものを証券化し、格付け機関のお墨付きで「将来高くなるから買った方がお得ですよ」と騙して売りつけてきた商売は破綻し、混乱した経済により多くの皆さんが困っています。嬉しいニュースでは、日本人の自然科学者4人の先生方がノーベル賞を受賞されたことがあげられます。4人に共通しているのは研究結果を発表当時は、あまり世間に注目されていなかったものが、時が経ち、その正当な価値が学問的に評価されノーベル賞受賞に至った事ではないでしょうか。前者では本当は価値の無いものが、価値があるかのように思われたことが原因で世の混乱をきたしました。それに対し後者は長い時間をかけることにより、そのものが真理に近い、あるいは科学研究に非常に有用だと分かり世のためになっています。私がノーベル賞受賞の先生方のことを語るのをおこがましいと思ったのですが、私達も本当に患者さん達にとって価値のあるクリニックを目指しています。そして、いつか坂井瑠実クリニックが日本で最高のクリニックだと皆さんが感じてくれたらいいなと祈り、これからの抱負とします。



外来主任 城井 慶子

入職7年目になりますが、あっという間に過ぎた感じがしています。

現在は、外来や病棟にいることが多く、主に透析導入前の方々や

腹膜透析部門を担当させて頂いています。

腎臓病や透析療法に関する認知度は、まだまだ一般には低く、外来受診されて驚かれたり、十分に気持ちの準備ができずに透析に入られる方々にも接する機会を頂き、少しづつですが勉強させて頂いています。

慢性疾患における病状は、その方の人生に大きく関わる事柄も多く、改めて個々の有限な人生を意識させられます。けれども、ひとりではなく、透析療法を受けている仲間や先輩・後輩の皆様がおられます。

外来では、こうしたネットワークを大切に、皆様がご自分らしい人生を過ごすためのお手伝いが出るよう、わかりやすい情報提供やご相談しやすい環境作りに貢献させて頂きたいと思っています。



臨床工学科 主任 松川 誠

私が10年前「良い透析施設作り」と、決意を抱いて初出勤したのが昨日のことに思えます。現在では当初の仲間はかなり減りましたが、今私の周りの仲間は、頼りない私を日々支えて頑張ってくれており感謝しています。また患者皆様におきましても、生意気な私を可愛がっていただきありがとうございます。

施設としてはまだまだ10年でこれからの時を迎え、高齢化、少子化にともなう老々介護、不況と世間では厳しい問題が山積みですが、坂井瑠実クリニックは進化していく施設と自負しております。私自身においても初心に戻って患者皆様に安心して治療が受けられる環境作り!!一人一人顔が違いうように透析も人と同じでなくていい!!個人に合った透析ライフをご提案し、日々笑顔で元気に過ごさせて頂けるよう微力ながら力添えできるように、頑張っていきたいと思っておりますのでこれからも宜しくお願いします。余談ですが、この号が出版される頃には我が家にも次男坊が誕生し賑やかな日々を過ごしていることと楽しみに待っています。僥越ではありますが、Yes,we,can!!



臨床検査科
佐藤 智香

私も検査室の一員として、なんとか10年目を迎えることが出来ました。

振り返れば、開院当初の検査室は、私1人で、右も左もわからない状態で、当初の2年間は前事務長で検査技師の堀河さんや他のスタッフにご指導していただき、現在は、松本部長と主に生理検査(エコー検査等)の栗栖さん、加えてパートの3名の方々に支えられながら今に至っています。芦屋の松尾さんも加えると現在7名になりました。

10周年を迎えるにあたり、もう一度初心に戻って一層努力し、特にエコー検査の技術習得を頑張りたいと考えております。

ところで、エコー検査といえば、誕生月検査の中のひとつですが、みなさん受けておられますか?体調の善し悪しに関わらず年に1度は腹部と心臓のエコー検査を受けられることをお勧めしています。

なお、検査でわからないことがあればお気軽に検査技師にお声をかけてください。今後ともよろしくお願いします。



患者会 **泊 一誠**

記念すべき10周年を迎えられ、お祝いを申し上げますと共に厳しい医療環境の中で今後益々のご発展を願っております。

私達透析患者にとって、坂井先生の透析に対する情熱で、当クリニック(芦屋)では長時間透析を勧めて下さっている事が、どんなに有り難い事なのかを再認識したいと思います。私個人は隔日5時間透析をして頂くようになって、透析30年余りの内で最も体調がいい様に感じています。

そんな現在今後の抱負として、今までは透析と仕事が生活の大事な部分を占めてましたが、仕事をリタイアした今は透析と家庭が中心になり、趣味などを通じた人との繋がりを大事にしたいと思っています。「うるうる」誌上や患者会報誌で、海外旅行記を読ませてもらう度に、一度海外旅行も出来たらと夢見ています。

最後により良い透析をしていただいている事に感謝の念で一杯です。



臨床工学科
副主任 **岡留 哲也**

私も、坂井瑠実クリニックに就職して11月で丸6年になります(態度だけは10年目とよく言われますが...)。

芦屋では深夜透析で、寝ながら長時間透析を希望される方が増え、私の担当しております在宅血液透析も、今年に入り急に患者数が増えました。透析に対するニーズも変化していると実感しております。長時間透析の利点を皆様にもどんどんご紹介していけたらと思っております。

今後とも、皆様のために微力ながらがんばってまいりますのでよろしく申し上げます!! o(^▽^)

御影の皆様、芦屋にお立ち寄りの際は、声かけてくださいね。 (^。^)



事務部 **中岡 里絵**

この10年、心に手を差し伸べ支え続けてくれる人との多くの出会いがあったからこそ、今私は、私らしくここに生きていられるのだと思います。たとえ病気を抱えていてもどんな時でも、そばにはいつでも手を差し伸べようとしてくれる誰かがいると感じられることで、どんなに心が支えられることでしょう!確かにクリニックは、治療の場ですが、長時間過ごす場だからこそ心に負担を感じない心地よい空間でもあって欲しいのです。坂井瑠実クリニックは、これからもずっと皆にとって身体的にも精神的にも心強い味方でいて下さい。

皆さん、私と出会ってくれてありがとうございます。今現在、坂井瑠実クリニックで過ごさせていただいてありがとうございます。これからもよろしくお願いします。



患者会 **中村 弘道**

いつも坂井理事長には、元気になるパワーを頂き、院長先生はじめ優秀なスタッフの皆さんには、適切なアドバイス、ご指導を頂き私達患者は元気で透析生活を送らせて頂いております。

本当に感謝申し上げます。私自身も2年目からお世話になり9年間、健常者と変わらない元気で、60歳を過ぎて普通どおり仕事しながら頑張らせて頂いております。毎日感謝感謝です。10年後のパーティーにも元気で参加できることを目標に精進して参りたいと思いますが、これからの10年間は透析医療費の個人負担が年々厳しくなってきます。その為にも腎友会の組織率を高める必要があります。

是非、患者、スタッフの皆さん、患者会の活動にご協力宜しくお願いします。

医療法人社団坂井瑠実クリニック

創立10周年記念式典・記念講演及び祝賀会

平成10年10月10日に開院した坂井瑠実クリニックは、昨年秋丸10年を迎えました。

10周年を記念して、10月26日(日)神戸ポートピアホテル「偕楽の間」にて、

創立10周年記念式典・記念講演会が、御影芦屋合わせて総勢205名

(患者・家族:124名、職員:66名、招待者:15名)の参加を得て盛大に開催されました。

記念式典

坂井理事長の挨拶に始まり、坂井瑠実クリニック患者会(友愛会)の中村会長により友愛会からの10周年のお祝いの品(電波時計10台)の目録が贈呈され、引き続きクリニックより透析歴30年以上の方、20年以上の方に表彰状が授与されました。現在、坂井瑠実クリニックには、透析歴30年以上の方9名、20年以上の方20名がおられます。そして、御影のクリニック玄関を開院以来お花で飾って頂いている浜田良子先生への表彰状の贈呈を予定していましたが、都合により欠席のため、これまでのお花の作品がスライドにより紹介されました。最後に、たくさんのお祝いが出がまったスライド写真と共に竣工からの10年のあゆみが三上事務長により語られ、坂井瑠実クリニックの10年の歴史を会場の皆さんがそれぞれの思いで聴き入っていました。



医療法人社団 坂井瑠実クリニック
創立10周年記念式典



表彰を受ける透析歴34年の森南正子さん



中村会長から目録を手渡される

記念講演会

「PTX(副甲状腺摘出術)

の治療成績について」

小林診療所 小林 彰



喜田院長の座長の下、講師に小林診療所の小林彰先生をお迎えし、講演が行われました。

小林先生も10年前にお隣で開業され同じく創立10周年を迎えられました。この10年間クリニックの手術室で当院の患者さんとはもとより近畿圏100施設に及ぶ500名以上の透析患者さんのPTX手術を行ってこられました。

副甲状腺ホルモンの働きや、二次性副甲状腺機能亢進症になるとどんな症状が起こるか、実際の症例や手術の様子などフィルム、データを駆使して分かりやすく話されました。同じ屋根の下にこのような経験豊富な先生がおられることに安堵した患者さんも多かったことでしょう。

「わたしの腎不全治療について」

座長の坂井理事長から御影、芦屋両クリニックで行われている長時間・深夜・隔日透析・在宅透析、移植まで患者さんにとっての選択中の広い透析医療の紹介があり、それぞれの透析療法を行っている患者さんから体験談の発表がありました。

長時間血液透析療法

浅野 正識(あさの まさのり)

平成10年3月27日に血液透析を導入。透析歴10年。



以前は、週3回4.5時間透析を受けていたが、仕事

の都合で、3.5時間透析になることもあり、十分な透析を受けることができず体調管理が難しくなってきました。そこで、十分な透析を受けるために、夜寝ている間に長い時間をかけてゆっくりと透析を行なうことが出来るオーバーナイト透析を希望し、芦屋坂井瑠実クリニックに転院しました。そして、オーバーナイト透析を受けるようになって、夜に行なうというこ

とで、残業が可能となり仕事もめいっぱいできるようになりました。また、ゆっくりと十分な透析が出来るためか、血圧は安定し内服薬も減り、貧血も改善してきたため造血のための注射も打たなくてよくなりました。今では、週末にスノウボードも楽しめるようになりました。

在宅血液透析療法

古菌 勉(ふるその つとむ)

1987年5月に血液透析を導入、1996年9月腹膜透析(CAPD)へ移行。

2007年4月血液透析を再導入し、2008年3月在宅血液透析に移行。透析歴21年6ヶ月。



26歳で血液透析を導入し9年間施設透析を行い、さら

に仕事の都合で腹膜透析に変更し、ほぼ20年間順調な透析ライフを送りました。ところが8~10年を超える腹膜透析患者には、被嚢性腹膜硬化症(ひのうせいふくま)こうかしょう:EPS)という、こじらすと死に至るやっかいな合併症

が高い頻度で発症することが知られています。いかに順調に腹膜透析を行っていても、現状では腹膜透析を止める以外に手立てはないとされています。したがって私はこの合併症を避けるために、やむなく施設血液透析に戻ることにしました。その直後から、体調が著しく低下しました。食欲不振、高血圧、特に血液透析が中二日空いたときに起きる思考低下とだるさがその主な症状で、仕事にも支障を来すようになりました。尿量がほとんど無くなった透析患者にとって、週三回4時間の血液透析では体調を維持することが難しいことを、身をもって痛感しました。

その苦しみの中、知人の医師より在宅血液透析を勧められ、そしてその治療法を実施している坂井瑠実先生のご紹介を受けました。坂井瑠実先生は、『透析の母』として全国で知らない人がいないくらい有名であり、以前から先生のお名前は存じておりました。この文章をお読みになっていらっしゃる方々の中にも、坂井瑠実先生のお人柄に触れて、『透析の母』・・・なるほど!』と思われた方がきっと多数いらっしゃるでしょう。坂井先生との面談で、当院は、施設血液透析、腹膜透析、隔日透析、オーバーナイト透析、そして在宅血液透析と全ての透析治療が整備されており、さらに腎移植も推進して

いる、我が国でも珍しい病院であることを知りました。これには驚いたと同時に、この施設であれば在宅血液透析の指導を受けることにより、以前の自分を取り戻せると確信しました。

2007年9月より在宅透析のための訓練を開始しました。月々金は、自宅の近院で施設血液透析を受け、土曜日もしくは日曜日を芦屋坂井瑠実クリニックでの在宅血液透析のための訓練にあてました。そして、2008年3月29日より在宅血液透析を開始しています。訓練期間が7ヶ月とかなり長いことに驚かれましたが、自宅の引越等し等の事情により長引いただけであり、スタッフの親切丁寧な指導により1~2ヶ月で在宅血液透析の自信は付いておりました。実際の治療の状況ですが、治療中、周囲に家族は居りますが、準備・穿刺から抜針・片付け・機械洗浄まで全てを一人で行っていきます。現在は、仕事の合間の時間帯をうまく使い、1週間に合計20時間程度、透析を行うことを目標にしています。体調はかなり安定しており、今では何ら無理なく仕事や日常生活が送れるようになっています。さて、私は芦屋から遠く離れた大阪府北部に住んでおります。なぜなら在宅血液透析を行える病院は近隣になく、驚くべきことに大阪府・兵庫県域では数軒のみしかありません。この現状と、

隔日血液透析療法

黒越 尚美(くろこし なおみ)

昭和56年3月12日に血液透析を導入。荻屋坂井瑠実クリニック開院後隔日透析開始。4時間から開始し、現在は6時間透析を行なっている。透析歴27年。



1975年
に蛋白尿
が初めて
以来、定期
的に通院治

坂井先生の透析治療にかける情熱、さらにスタッフの親切・丁寧さに接し、坂井瑠実クリニックに通院できるとを心から幸せであると思っております。また前述したように、全ての透析治療法が整っている病院は全国でも希(まれ)といっても過言ではありません。近隣から通院されている患者さんには、そのすばらしさをご存じなかつた方も大勢いらつしやることと思います。私は、このように志(こころざし)の高い坂井瑠実クリニックが関西地区における在宅血液透析の中核施設となり、現在苦しんでいる患者さんを多く救っていただきたいと心から望んでおります。私はただの一患者でありませんが、支援を惜しまないつもりです。



3ゲームも楽しむことが出来るほど元気に過ごしています。このように十分に透析が出来る環境を整えて下さっていることにとても感謝しています。

腹膜透析療法(CAPD)

熊谷 峰子(くまがい みねこ)

平成12年6月に腹膜透析(CAPD)を導入。透析歴8年。



友人の紹介で坂井先生に診察してもらおうようになり、

療をしていましたが、1981年に思いがけず風邪をひき入院したことがきっかけで悪化し、透析の説明を受けて導入しました。その頃の統計では、透析導入者の生存率は、一年後、二年後と減っていく、三年後の生存率はそんなに少ないのお!というものでして、暗い気持ちで不安いっぱいでした。そして導入期が過ぎた頃、坂井先生の病院に転院して、透析8年目という元気な方々と出会ったことと、勉強会で坂井先生から「自己管理と十分な透析で、あたり前の生活が出来ること」を教えてくださいました。そして今、毎回6時間の隔日透析を行なっており、体調も安定しています。以前から、テニスを続けているのですが、今では、週末には

8年あまり前に透析を導入しました。透析の導入の話を聞いた私は、不安と心配でいっぱいでした。そんな私に坂井先生より透析について丁寧に説明して頂きました。透析には血液透析と腹膜透析の2種類あり、どちらにもメリットとデメリットがあるということでした。迷いましたが、私は腹膜透析を選択しました。その理由は、津軽三味線をしていたこともあり、出かける時はお腹を少し軽くして出かけるなど外出し易く、自由があると考えたこと、残腎機能が長く残り尿量を保つことが出来ること、食事制限もゆるやかであることなどです。おかげさ

まで、導入後8年以上経った今も1日の尿が1000cc近く出ています。そして、津軽三味線も続けています。坂井瑠実クリニック患者会のクリスマス会では、坂井先生と一緒に津軽三味線を弾いて皆さんに聴いていただいたこともありました。腹膜透析を選んだことも良かったと思っています。4カ月程前からは、夜寝ながらゆつくりと腹膜透析をするAPDをしています。これも初めは不安でしたが、説明通り操作すると案外簡単に出来ております。このまま可能な限り少しでも長くAPDを続けていきたいと考えています。そして、これからも前向きに明るく過ごしたいと思っています。

腎移植療法

中岡 里絵(なかおか りえ)

平成3年に血液透析導入、平成4年母から生体腎移植を受ける。平成8年に血液透析を再導入。献腎移植の登録をして十数年目の昨年末、献腎移植を受ける機会に恵まれる。



夜中に突然の移植意志確認の電話があり、4~5時間

後改めて呼び出しの連絡が入り即入院。その日の内にあわただしく様々な検査。その後、家族と共に移植手術についての説明を受けつつ透析。そして複雑な思いで二晩待機した後の手術でした。術後免疫抑制剤の服用が始まり、幸運にも1週間ほどで尿が出たため透析は離脱出来、多量な(2リットル以上)水分摂取が必要になったことと薬の影響での下痢、昼夜問わず20〜30分おきの尿意のための睡眠不足など、次々に大変なことが続きましたが、気持ち的には有り難さと喜びが大きく苦には感じませんでした。術後2週間位で個室から総室に転室可能で、ある程度落ち着くと外出、外泊を練習後退院となりました。その後1週間ごとに外来診察で検査を受け薬の量を調節してもらい、体調がよければ外来診察の間隔があいていきます。

現在、太り過ぎに注意する(薬の影響で食欲が増進するため)、グレープフルーツはダメ、生ものに注意する(感染予防のため)などありますが、特に食事制限はなく、時間的余裕も出来ました。しかし、まだ術後10ヶ月程ということもあり、検査データも不安定で、体調管理(体重・血圧・熱等)や感染予防などに妙に神経質にもなり、生活リズムがまだまだつかみきれいません。移植の機会に恵まれた有り難さは実感しながらも喜びに浸る程の精神的

な余裕がまだないのが現状です。2〜3年して体調や気持ちにより安定する時期を迎えられるなら、時間をゆったりととれる旅行など、今まで出来なかったことやあきらめがちだったことを少しずつでも実現出来ればと思っています。

移植には、一生の免疫抑制剤服用が必要で、その薬による副作用もあるし、すべてが順調とは限らず多かれ少なかれ様々な事があるのは事実です。しかし、移植の機会に恵まれることにより、身体的精神的に新たな広がりを与えてもらえる可能性もあることも確かだと思っています。今、献腎移植の登録をされていない方も、あらゆる可能性を求めて登録をすることを一度考えてみられてはどうでしょうか。移植療法が、腎不全治療の選択肢の一つとしてより身近な治療になればと、今改めて感じています。

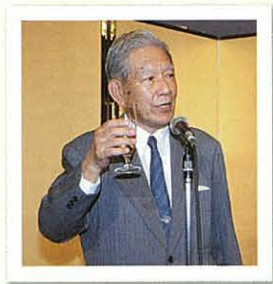


祝賀会

喜田院長の挨拶に始まり、招待者として来て頂いていた元スタッフの方々からの祝辞を頂きました。なつかしく感じた方もあったでしょう。また、各先生、役職者、スタッフが一言ずつ挨拶をしていきながら、みんなで豪華な食事を頂き楽しいひと時を満喫しました。これまでの10年をしみじみ感じ入った方も、これからの10年に思いを馳せた方も、それぞれがそれぞれに様々な新たな思いと希望を胸に、これから始まる10年をさあ歩きはじめましょう!



喜田院長の挨拶



新光先生の乾杯



第4回長時間透析研究会 神戸で開催される

平成20年11月30日(日)、坂井瑠実が当番幹事となってポートアイランドの神商ホールで第4回長時間透析研究会が開かれました。テーマは「長時間透析を検証する」、おりしも学会シーズンで出足が心配されましたが、遠方からも大勢参加され250名収容のホールは満員の盛況となりました。ランチオンセミナーをばさんで朝9時半から夕方4時まで中身の濃い研究会となりました。



シンポジウム 長時間透析の実践と効果

シンポジウムは齊藤明先生(東海大学医学部腎・代謝内科)と坂井瑠実理事長を座長に、長時間透析を積極的にやっている四施設の医師から、長時間透析の効果や方法について発表が続いた。

有阪弘明先生(日高リハビリテーション病院)は「長時間透析と慢性心筋疾患」というテーマで循環器科の医師として透析患者の心臓疾患に着目し、長時間透析導入後の経過を提示された。長時間透析による栄養状態、貧血、高血圧の改善は心機能を取り巻く因子を改善することにより、心臓死の激減が期待されると述べられた。

千葉尚市先生(腎友会岩見沢クリニック)は「当院の長時間頻回透析の効果」と題して、長年行っている週4回透析(6-6-6-4時間)の長時間頻回透析の透析効率、P管理、貧血管理について報告された。特に貧血管理に関してエリスロポエチンの投与量の減少を指摘し、長時間頻回透析はP管理、貧血管理において有効であると結論づけられた。

前田利朗先生(幸善会前田病院)のテーマは「全患者6時間透析-19年間の実践とその結果について」。6時間透析を行っている130人の患者の諸データを検討し、全国平均に比べ生存率が明らかに高いこと、至適透析の指標として患者生存率を考えたとき、透析時間は長いほうが優れていると発表された。

金田 浩先生(かもめクリニック)は「長時間透析と食事について」-食塩摂取量の増大は高血圧の原因になるのでしょうか?とかもめクリニックの限定自由食の内訳の紹介し、1回6時間以上の長時間透析を実施する限り、食塩摂取量は高血圧を引き起こさず栄養を改善したと述べられた。

夫々の先生方の発表後には参加者から矢継ぎ早に質問意見が飛び交い、活発な、充実したシンポジウムであった。

ランチオンセミナー

昼には「透析患者のリン管理 最近の進歩」と題して神戸大学腎・血液浄化センター長 深川雅史先生の講演が行われた。

一般演題

一般演題は13演題中3題がDRの発表、看護師2題・臨床工学技士5題・栄養士からも1題発表された。又長時間透析の最たるものである在宅透析を行っている当院の患者さんの古菌 勉さんや以前スプリングセミナーで講演を依頼した茨城の米山昌幸さんも夫々在宅の経験が話された。

当院スタッフの発表は以下の通り

当院における長時間透析患者の意識調査

芦屋坂井瑠実クリニック

井下みどり

芦屋坂井瑠実クリニックで週当たり17・5時間以上を行っている22名を対象に、長時間透析を始めた理由、メリット、デメリット、透析中の時間の使い方、長時間透析をしてからの変化等の聞き取り調査を行った。結果として充分透析を受けることで体力・気力がアップし、QOLが高まる等、長時間透析の有効性が実感できたと発表した。



長時間透析における溶質除去の検討

坂井瑠実クリニック

松川 誠

至適透析を行う上で溶質除去を把握する必要があると考え、各種治療時間、および治療法における溶質除去の比較検討を行った。その結果β₂MGの除去については長時間透析およびHDFが効果的であると考えられたと締めくくった。

長時間透析(隔日透析を含む)における透析量の評価

芦屋坂井瑠実クリニック

塚田 毅

長時間透析患者の透析廃液を部分貯留することによって、廃液中のクリアランス物質の測定を行った。週3回4時間の透析と比較してUN等の小分子だけでなく低分子蛋白質においても良好な結果を得たと発表した。



◆ ◆ ◆
幹事持ち回りの研究会が4回目にして神戸にやってきた。6年前に参加者1000人を超えるサイコネフロジー

研究会を開いた経験がある。当時より職員は増えてはいるが、日曜に透析を回している芦屋からは応援は得られない。果たしていわき、岩見沢、伊万里で行われたこれまでの研究会のようになまく出来るかどうか。ホームページでの事前登録はわずか50名余で、ランチオンセミナーのお弁当が多すぎないかと心配であったが、近畿はもとより、北海道、山形、東京、愛知、岐阜、長崎、大分、福岡、愛媛等々、遠方からも来ていただき、参加者の合計は243名であった。4月の診療報酬改定で時間枠が復活したこともあり、長時間透析に関心が向けられたことと思われる。

職員全員で受付からクロック、接待、PC、照明まで役割分担をしながら勉強をした一日であった。

後日松江腎クリニックの草刈万寿夫先生からメールをいただいた。

・・・運営をクリニックのスタッフだけで行われたようですが、うちに「振られても」これはできないなあと思いましたが。すばらしい運営でした。・・・

皆さんご苦勞様でした。

次はかもめクリニックの金田 浩先生が当番幹事となつて11月8日(日)パシフィコ横浜で開催されます。

事務長 三上珠実





“患者の皆さん、透析を受けるプロになってください”

副院長 岡本 久美

ニュースでは医師不足による病院の閉鎖や、とくに産科や小児科の救急体制の不備が毎日のように取り上げられ、医療全体に対して漠然と不安を感じておられる方も多くいらっしゃるかも知れません。透析医療の分野でも、透析症例の増加に対して専門医の数が追いつかず、兵庫県内でも地域によっては透析室専従の医師がいないまま透析が行われているところもあるようです。透析の方針や検査結果について十分な説明がないため不安を抱えて思い余って遠方から相談に来られる方もあり、外来でお話をうかがって持参された検査結果などをご説明すると安心してお帰りになったりすることがあります。

私が坂井瑠実クリニックに入職してはや5年半になりますが、当クリニックの第一印象は、患者さん達がお元気で坂井理事長以下スタッフを信頼しながらも自分の意見や希望をはっきりと述べ、スタッフも臨機応変に対応していてとても活気があるということでした。それは私がこれま

で見てきたどの透析室にもなかった印象です。

今後の抱負としては、そんな自由闊達な雰囲気はそのままに、さらにお互いに自立した信頼関係へ進化してより良質の透析療法を提供し続けていけたらと考えています。そのためには小さなクリニックではありますが少数精鋭のプロ集団になるべく、クリニックにかかわるすべての人がそれぞれの持ち場でやるべきことを確実に実行していくことが大切なのではないかと思っています。すべての人といったのは私たち医師、看護師、介護士、臨床工学士、検査技師、レントゲン技師、事務、栄養士、調理員、清掃などのスタッフが知恵を出し合い協力しあって努力していくことは当然のことですが、加えて患者さん本人やご家族の方のお力も是非必要です。患者のみなさんも透析を受けるプロを目指して下さい。

より元気になって充実した人生を歩んでいただくために、食事や運動、透析について一緒に勉強したり考えたりしていきましょう。

腹膜透析交流会&勉強会開催

平成20年11月8日、御影クリニック食堂にて、秋の腹膜透析交流会&勉強会が開催されました。

今回の勉強会は、「検査結果の見方(血液透析と腹膜透析との違い)について」、皆様個々のデータ表を参考に、尿量や β_2 などの話がすすみました。交流会では、公共交通機関利用時の液の交換場所について、新幹線では車掌室、都心の駅では特別室、デパートでは医務室を利用されているという方の体験談を聞かせて頂き、皆が興味深々聞き入りました。長期間透析されている方の体験談やトラブル時の対応など、有意義な時間を共有でき、励みになられたというご意見が聞かれました。



編集後記

編集委員 杉本 膳寿

十年前。私が福岡で学ランに身を包み、まだ可愛い高校生だった頃、神戸のこの地に坂井瑠実クリニックが誕生しました。
今回の記念号編集にあたって、うえるうえる第一号から目を通して、今と、この十年という月日に様々な出来事や想いが強く込められていることを感じます。

そして十年後。結婚して家庭を築いた私が(あくまで勝手な予定です)、さらに想いの詰まった坂井瑠実クリニックを皆さんと一緒に築けていけたらと思います。



発行所
医療法人社団
坂井瑠実クリニック
電話〇七八一八二二一八一
一六五八一〇〇四六
神戸市東灘区御影本町二丁目二一〇
発行責任者 坂井瑠実
顧問 三上珠実
編集責任者 城井慶子
発行日 平成二十一年二月一日
印刷 田中印刷出版株式会社
〒六五七一〇八四五
神戸市灘区岩屋中町
三一一一四